

阪神・淡路大震災による土砂災害 崩壊拡大

平成7年（1995年）4月撮影



平成7年（1995年）8月撮影

鶴甲地区（神戸市）



阪神・淡路大震災で大きく揺さぶられた六甲山地では、700カ所以上で山腹が崩れる等の土砂災害が発生しました。そして、地震後の降雨等で、崩壊地の数は2000箇所以上に増加しました。特に、神戸市灘区の鶴甲地区ではその後の余震や降雨で崩壊が拡大しました。

引用：国土交通省水管理・国土保全局砂防部資料平成28年4月

1

仁川百合野町地区地すべり災害

平成7年（1995）年1月17日、阪神・淡路大震災によって起きた大規模な地すべり（幅約100m、長さ約100m、深さ15m、移動土塊約100,000m³）

仁川百合野町地区では13戸の家屋が倒壊し、34名の尊い命が奪われました。



2